

駿河台大学資格課程年報

Surugadai University
qualification course annual report

司 書 課 程
学 芸 員 課 程

No.22
(2021)

ごあいさつ

駿河台大学資格課程 主任 寺嶋 秀美

『駿河台大学資格課程年報』第22号をお届けいたします。

1994年3月に駿河台大学文化情報学部が創設され、1995年4月に、文化情報学部資格課程（司書課程・学芸員課程）が設置されました。開設7年目の2001年に『駿河台大学資格課程年報』創刊号を刊行しました。そして、その後も継続して年報を刊行し、今年度も無事に第22号を刊行することとなりました。

司書課程においては、資料情報の組織化及び検索・提供を行う司書の育成を行っています。文字情報だけでなく、映像や音響も含めた多様な情報に対する理解や対処ができる、まさに情報の専門家の役割を果たす人材の育成をめざしています。

学芸員課程においては、博物館資料の展示・教育活動等の情報社会における意義・役割を重視したカリキュラムを設置し、資料情報のデータベース化やインターネット上での公開などの情報処理技術を身につけた新しい学芸員の育成をめざしています。

2009年度には『メディア情報学部』が誕生し、駿河台大学資格課程は同学部に設置されています。さらに、資格課程はメディア情報学部のほか、法学部・経済経営学部・現代文化学部・スポーツ科学部・心理学部の学生も学ぶことができます。

2013年度からは、図書館法および博物館法の改正に伴い、それに沿った新しいカリキュラムが開始されています。

今年度も新型コロナ禍により、一部の授業がオンラインで実施され、教員および学生の双方が不自由な学習環境となりましたが、1年間を終えることができました。ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

また本学では、学外実習が始まった当初から教員がそれぞれの実習館を訪問し、実習生を受け入れてくださっている博物館とのコミュニケーションを図ってまいりました。今年度も新型コロナ禍のなかで実習を受け入れていただき、ご理解・ご協力いただいた館園には、厚く御礼申し上げます。この年報を通して本学の資格課程カリキュラムの内容をご確認いただけましたら幸いです。

= 目 次 =

ごあいさつ

寺嶋 秀美

I. 司書課程

駿河台大学 司書課程について

石川 賀一 …… 5

II. 学芸員課程

駿河台大学 学芸員課程について

野村 正弘 ……9

《博物館実習 体験記録》

博物館実習を終わって —課題レポートから—

博物館実習生 ……13

資 料

博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年分） 2019年度、2020年度、2021年度

2021年度資格課程（司書課程・学芸員課程）修了者

司書課程科目担当教員一覧

学芸員課程科目担当教員一覧

I . 司書課程

駿河台大学 司書課程について

メディア情報学部 講師 石川 賀一

司書課程の特色

駿河台大学では1994年文化情報学部創設の翌年に資格課程として司書課程と学芸員課程を設置し、これまで1,200名以上の資格取得者を輩出している。2001年度より資格課程は全学に開かれ、他学部の学生も履修できるようになった。

2009年に文化情報学部はメディア情報学部改編された。メディア情報学部は、3分野・7つのモジュールで構成されており、様々なメディアの本質を理解し、各種メディアに精通し、多元的メディア社会に即戦力となる人材の育成を目標としている。

司書が専門的な業務を遂行する職員としてたずさわる図書館には、公共図書館・学校図書館・大学図書館に加えて、企業等に設置されている専門図書館や情報センターがあり、それぞれの利用者のニーズに応じて様々な情報サービスを提供している。駿河台大学の司書課程ではメディアと情報資源に関する全般的な知識や技術を学んだ上で、司書資格を取得することにより、今後のマルチメディア時代に公共図書館だけでなく、大学・専門・学校図書館などでも役に立つ図書館・情報専門職の教育を行っていることが特色である。

司書課程 4年間の流れ

司書資格のための科目は1年次から開講されている。4年次までに資格に必要な科目を計画的に修得し単位をそろえる。2013年度以降の入学生を例に、4年間の履修の流れを紹介する。(司書課程科目一覧を参照)

1年次： 入学してすぐに資格課程登録ガイダンスを受け、『資格課程受講登録』を行う。授業に出席し単位を修得する。1年次から開講される必修科目は「図書館情報学」「図書館サービス概論」「図書館情報資源概論」の3科目である。

2年次： 授業に出席し単位を修得する。2年次から開講される必修科目は「生涯学習論」「図書館情報技術論」「情報サービス論」「情報資源組織論」「児童サービス論」の5科目である。選択科目も適宜修得する。

3・4年次： 授業に出席し単位を修得する。3年次から開講される必修科目は5科目(講義科目1科目、演習科目4科目)で、必ず修得し、また選択科目を適宜修得する。そして司書資格に必要な単位(30単位)をそろえる。

司書課程科目一覧（2017年度以降入学生適用）

区分	図書館法施行規則によって定められている科目	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数	
必修科目	甲群	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2	13科目 26単位 必修
		図書館概論	2	図書館情報学	2	1	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	3・4	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	1	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ（基礎）	2	3・4	
				情報サービス演習Ⅱ（発展）	2	3・4	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	1	
		情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
		情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	2	3・4	
				情報資源組織演習Ⅱ	2	3・4	
児童サービス論	2	児童サービス論	2	2			
選択科目	乙群	図書館情報資源特論	1	歴史資料論	2	3・4	2科目 4単位 以上
				デジタル・アーカイブス論	2	3・4	
		図書館サービス特論	1	コミュニケーション論	2	2・3	
		図書館基礎特論	1	情報処理概論	2	1	
図書館総合演習	1	図書館総合演習	2	3・4			

II. 学芸員課程

駿河台大学 学芸員課程について

メディア情報学部 教授 野村 正弘

学芸員課程の目標と経過

駿河台大学の学芸員課程は、メディア情報学部設置されている。メディア情報学部の教育目標の一つは、「情報メディアエーター」の養成である。この「情報メディアエーター」とは、人間の文化的営みに関する諸々の資料などに関する専門的知識を持つとともに、これらの資料情報をシステム化し、データベース化するための情報処理技術を身につけ、これらの資料に関する要求に対して適切な情報提供の仲介を行う専門家のことである。文化資料の宝庫とも言える博物館の「情報メディアエーター」とは、その能力をもつ博物館学芸員を意味する。

この目標を達成するため、メディア情報学部の前進である文化情報学部のカリキュラムには、学部設置当初から博物館関係の科目が設けられた。1995年、博物館法施行規則にもとづく学芸員資格取得のための必要科目も開設された。また同年、学芸員課程と司書課程を合わせた「文化情報学部資格課程」が設置され、専門的知識と情報処理技術を身に付けた学芸員の養成が本格的に開始された。

その後、1996年の博物館法施行規則改正に伴い、1997年度から必修科目が開講されている。2001年度には、他学部の学生や学外の科目等履修生も学芸員の資格取得を目指せるように、学則および科目の一部を改正した。資格課程も学部規模から大学規模に拡大され、現在は全学部からの委員で構成される「資格課程委員会」がその運営に当たっている。

学芸員課程の履修科目

1995年の開講時には、必修科目として6科目14単位、選択科目では12科目の中から4科目8単位以上、人文・自然科学系科目として10科目の中から3科目6単位以上の履修が資格取得に必要なように設定された。

1996年度の博物館法施行規則の改正にともなって、必修科目に「生涯学習概論」、「博物館概論」を追加し、必要単位数を8科目18単位とした。さらに、2001年度から、文化情報学部のカリキュラムの一部改正、ならびに資格課程を本学の他学部、科目等履修生に開講したことにともない、一部科目の新設ならびに入れ替えを行って、学芸員資格取得に必要な科目を加え改正した。

主な変更点は、次の通りである。必修科目では「博物館資料論」を設け、選択科目では科目を一部入れ替えるとともに、他学部開放にともない人文・自然科学系科目をA、Bの二つに分け、それぞれⅡ群、Ⅲ群とした。履修方法は、Ⅰ群は、受講者全員が履修することとし、Ⅱ群、Ⅲ群の科目からは2科目4単位以上を自由選択により修得しなければならないことにした。また、「博物館実習」は、年間を通して大学で行う学内実習と博物館などの現場施設で行う学外実習を合わせて実施している。

2013年度からは博物館法施行規則改正に伴う新科目の開設を行い、2017年度からは、配当年次、選択科目の見直し等を行い、資格を取得しやすくして、別表1のカリキュラムでの学芸員養成を開始している。

履修登録および博物館実習への対応

学芸員課程の履修については、毎年、「資格課程履修ガイド」を発行し、学生に配布して周知を図っている。これに基づく年間スケジュールでは、まず、毎年4月、1年次生および3年次編入生を迎えた段階で、司書課程と合同で「資格課程登録ガイダンス」を行い、その後、学芸員課程の履修を希望する学生は、登録期間内に本学の所定の方法にしたがって教務課窓口で登録することになっている。

博物館実習については、3年次生を対象に、毎年11月中旬に第1回のガイダンスを行い、博物館実習の実施内容や実施上の注意事項を改めて説明している。そのとき、実習館園に関するアンケート調査を行い、その後のガイダンスで担当教員と学生が相談しつつ実習希望館園を絞り、適時学生自身に申し込みをさせている。その後も、申し込みの状況や途中経過などを確かめ、およそ3月～4月末までに学生各自の実習館の内諾をいただけるようにしている。内諾をいただいた実習予定館園に、正式に文書で依頼している。

実習直前には、実習予定学生に対して「実習直前ガイダンス」を行っている。ここでは、博物館実習は、実習実施に当たっての諸注意や期間中の連絡体制等を説明し、実習日誌などを配布して、実習の心構えと準備を整えさせている。博物館実習の授業内では、実習に対する心構え、事前準備などの事前指導を行っている。実習が始まると、担当教員ができるだけ実習期間中に各実習館園に挨拶に伺って、実習状況の確認と実習学生の激励を行い、以後の学生受入についてお願いしている。また、実習終了後には事後指導を行い、学芸員の職務を再確認させ、学芸員になるための一層の努力を促している。なお、資格課程に関わる一連の事務は、メディア情報学部担当の教務課職員がその処理に当たっている。

学芸員資格課程の今後

1997年度に初めて、本学の学芸員資格課程で86名が学芸員の資格を取得したが、2013年度の法改正後は5～6名の学生が資格を取得している。ここ数年は10名程度と微増傾向にあるが、これまで博物館に就職した者は数名にすぎない。学芸員募集には、募集分野の細分化や高学歴化の傾向、施設運営の指定管理制度導入の影響が見られ、資格を持ちながらそれを活かす職に就けない状況が続いている。これは本学資格課程だけの問題ではなく、学芸員課程を開設している日本全国の大学に共通な問題である。

一方、学芸員資格は国家資格であるため、これを取得したことを重視して採用を行ってくれる企業も、多くはないものの存在する。そこで本学では、博物館実習を一種のインターンシップの場としても捉えている。幸い、実習博物館でも、実習学生の受け入れを社会教育施設の業務の一つであると解して協力してくれるところもあり、今後大学と博物館とのさらなる連携を推進して行く必要がある。

別表1 学芸員課程科目一覧(2017年度以降入学生適用)

区分	博物館法施行規則によって定められている科目等	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2	10科目 20単位 必修
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3 4	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3 4	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	4	
		博物館実習Ⅱ	2	4		
選択科目	資料・情報管理系科目		マルチメディア論	2	2	8単位 以上 選択
			アーカイブズ学		3 4	
			映像メディア論	2	3 4	
			音響メディア論	2	2	
			データベース設計論	2	3 4	
			ネットワーク構築論	2	3 4	
			デジタル・アーカイブズ論	2	3 4	
	人文・自然科学系科目		歴史資料論	2	3 4	
			都市と文化施設	2	2	
			文化人類学Ⅰ	2	1 2	
			文化人類学Ⅱ	2	1 2	
			歴史学Ⅰ	2	1 2	
			歴史学Ⅱ	2	1 2	
			環境生物学Ⅰ	2	1 2	
			環境生物学Ⅱ	2	1 2	
			生命の科学Ⅰ	2	1 2	
			生命の科学Ⅱ	2	1 2	
			現代自然科学Ⅰ	2	1 2	
			現代自然科学Ⅱ	2	1 2	
			地球科学	2	1 2	
			法史学	2	2 3	
			経済史Ⅰ	2	1	
			経済史Ⅱ	2	1	
			日本文化論Ⅰ	2	2	
			日本文化論Ⅱ	2	2	
			西洋文化史	2	2 3	

〈総合博物館での実習〉

栃木県立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 伊澤 美紀

私は7月21日、9月8・9・24・25・28日の6日間栃木県宇都宮市にある栃木県立博物館にて実習させていただきました。栃木県立博物館は栃木県の歴史・文化・自然に関する資料を収集保存し、調査研究、展示を行い県民文化の向上や発展に寄与するとともに、広く郷土に対する知識と理解を深めてもらうことを目的として開館されました。人文課・自然課両方の資料が展示してあるため栃木県の歴史や文化、自然について詳しく学ぶことができます。今回は新型コロナウイルスの関係でほとんどが休館中に実習が行われたため、来場したお客様との交流はなく、実践的な実習を多く行いました。実習の際には、希望分野を選ぶことができたので、私は民族を希望しました。

初日では開講式が行われ、基本的な博物館の役割やどのような資料が展示されているのかの説明があり、企画展も行っていたため、その企画展を担当した学芸員の方のお話を聞くことができました。

また、収蔵庫などがあるバックヤードを見学することによって博物館に来た資料がどのように運ばれ、管理されているのかが分かりました。人文系・自然系によって企画展の時期や整理の方法が違うということも教えていただきました。教育活動では博物館内だけではなく小学校、中学校で課外活動を積極的に行っていることが分かりました。

2日目は、ポスター作成、梱包作業、収蔵庫整理、制作したポスターの発表を行いました。ポスター作成ではが今年の冬に行われる「昔のこと知ってつけ?～道具を知れば暮らしが見える～」というテーマで作成し、展示を見てもらう対象は小学3年生ぐらいという課題が与えられillustratorで作成しました。どのぐらいの文字の大きさにすれば良いのか、どんな画像を選択し、どこに配置をすれば見えてもらえるかなど考えることが難しかったです。

午後は梱包作業を行いました。私は、盃・盃台・弁当箱を梱包しました。始めは学芸員さんの指示なしで自分の力だけで行いました。自分の力で行った後に梱包を外し、自分が梱包する上で気をつけたことを言いながら、学芸員さんのアドバイスを聞くという流れで行いました。自分だけで行ったときに薄葉紙を逆にして包んでしまったり、薄葉紙を使いすぎてしまったりと失敗も多くあったので、もう一回梱包のやり方を見直す必要があると思いました。

また、梱包する物の素材をよく観察してどのように梱包すれば短時間でコンパクトにまとめるにはどうしたら良いのかを考えながら行う必要があると改めて考えさせられました。2日目の最後には一緒に

実習を行っていた実習生が作ったポスターを発表する時間があり、同じテーマや条件が与えられてもそれぞれ力を入れた部分や見せ方など自分と違う作品を見ることによって勉強になりました。

3日目の午前中は寄贈された物の掃除、資料の撮影・記録・タグの作成、資料の測定、収蔵庫の整理を行いました。寄贈された物の掃除では資料によって汚れがひどい物、壊れやすい物様々あり、丁寧に扱いながら汚れを取るという作業を行いました。資料をよく観察して行うことが大切だと思いました。午後は自分以外の2人の実習生と協力して収蔵庫に入る前の資料を撮影・測定・資料につけるタグに資料の情報を書き込むという作業を撮影室で行いました。資料の撮影では法被・着物を撮影しました。授業で撮影はやったことがありましたが、実際の博物館にある撮影室で行うとなるとその環境に応じてどのように資料を撮影すれば資料の状態が分かる写真が撮れるのか考えながら行うことが大変でした。資料の長さを測るときは、私が測った資料は和讃を記録したもので、冊子上になっていたので比較的測りやすかったのですが、物によっては測りにくいものがあるので考えながら行う必要があると思いました。次に測った物を紙に記録しながら資料につけるタグの作成を行いました。タグの大きさは縦1センチ、横約2センチのところに寄贈していただいた方の住所・名前・資料の名前・番号を書き込みました。資料によっては資料名が長いものもあり、読みやすい字で書かなければならず、とても苦戦しました。午後は収蔵庫の整理を行いました。元々書かれていた番号を書き直し、資料を移動させるという作業でした。水で消える液体で資料に番号を書いていく中で、資料によっては凹凸があり書きにくい物もあり、目立たないように番号を小さく書くことが大変でした。

4日目は9月23日まで行われていたテーマ展の撤収作業を行いました。作業としては展示されている資料を展示ケースから出し、マットを敷いた所に資料を置き、資料の情報が書かれたタグをつけ直し、収蔵庫に資料を戻し、その後展示室の片付けや掃除を行うという流れでした。資料と共に一緒に展示されていたパネルやキャプションなども同時に片付けを行いました。資料によってそのまま台におかれている物、針金で壁に掛かっているネット部分にくくりつけられている物、金具でつるされている物様々あり、資料によって見せ方も様々あるということが改めて分かりました。資料によっては一人で持てない物もあったので、周りの人と連携して作業を行うことが大切だと思いました。収蔵庫がいくつかに分かれているため、収蔵庫に戻すことを考えながら作業をしなければならず、どれを先に出して台車で運ぶのか優先順位をつけながら資料を運ぶことが難しかったです。今回は休館中に作業を行ったのでスムーズに資料を運ぶことができましたが、開館中に行うとなった場合資料を運ぶルートなど来場者の方がいることを考えると、もっと時間がかかると思いました。

5日目の午前中は展示パネルを使っでの作業（練習）を行いました。パネルの厚さは7ミリあり、カッターで定規を当てながらまっすぐに切ることが難しく苦戦しました。午後は実際にパネルに写真を貼ってパネルを切る作業を行いました。次の企画展に使う写真パネルということでも緊張しながら作業を行いました。実際の企画展では多くのパネルを使うので、限られた時間の中で作業を行っている学芸員さんは大変で、慣れがある作業だと思いました。

6日目の午前中は資料整理（資料の写真を撮る・長さなどを測る・情報を記録する）を行いました。今回は主に2枚になっている菓子木型を整理しました。その際に上の部分と下の部分では使われている木の部分が違うことや木目の見方で板目・柃目などがあるということも詳しく教えていただきました。

午後は3日目の午後と同じように収蔵庫に入る前の資料を撮影・測定・資料につけるタグに資料の情報を書き込むという作業を撮影室で行いました。今回は帯や足袋、うちわなど祭で使うような資料でした。2回目ということで学芸員さんのアシスタントなしで実習生2人だけで撮影を行いました(写真1)。資料に番号を書き込むことも2回目でしたがなかなか難しく、慣れのある作業だと思いました(写真2)。帯にタグをつける場合は縫ってつけなければならず資料をできるだけ傷つけず、目立ちにくいところにつけることが大変でした。

実習全体を振り返ると学校の授業では経験できない、貴重な体験をさせていただきました。自分以外の実習生と協力して行うことも多かったので、連携をして自分たちで考えながら作業することが多いということも分かりました。沢山の学びもあり、今後自分の経験として様々な場面で活かしていきたいです。

最後になりますが、通常の業務に加え新型コロナウイルスの対応で多忙の中実習を受け入れてくださった栃木県立博物館の方々に、感謝を申し上げます。



写真1 資料の写真撮影



写真2 資料のタグ付・番号書き込み

〈歴史博物館〉での実習

埼玉県歴史と民族の博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 内田 智也

私は、6月17日から25日の期間で、19日から21日を除いた6日間、埼玉県立歴史と民俗の博物館にて実習させていただいた。埼玉県立歴史と民俗の博物館は、「埼玉における人々の暮らしと文化」をテーマとした博物館で、歴史・民俗・美術の研究や資料の収集を行っている。常設展示では10部屋に分か

れており、時代よっての出来事を、資料を通して伝えている。また、「ゆめ・体験ひろば」では、勾玉づくりや藍染体験を行うことができ伝統文化を体験することができる。

実習させていただいた6日間では、教育普及活動の体験、広報活動、民俗・考古・古美術資料の取り扱い方、資料の梱包作業、IPMの害虫調査、収蔵庫の清掃、展示の企画・演示等、様々なことをさせていただいた。

実習初日では、博物館の大まかな概要についての説明がされた。博物館では学芸員のほかに教職の方や地域の展示解説ボランティアのおかげで運営されている。また、新型コロナウイルスとの向き合い方については、体験コーナーは1回の開催につき1組のみの参加に制限され、予約が必須であり、学校規模の受け入れを全面的に拒否せざるを得ない状況であったようだ。1年以上経った現在では、少数であるなら学校の受け入れを再開し、体験授業を行っている。後半では、資料の調査活用について学んだ。保護をすることは、管理し、展示に活用することで成り立っている。また、資料の購入は、博物館の目的に沿っているかを慎重に調査をして決定している。さらに、当時の写真をメディアや論文の参考資料として貸し出すことで貴重な収入源としての役割も果たしている。

また、バックヤードの構造は鉄や木製でできたドアで何重にも設けることで文化財害虫の侵入を防ぐことができる。IPMについても説明され、後半で館内見学をした時に実際に確認することができた。

2日目は、前半に「ゆめ・体験ひろば」で勾玉づくりと藍染体験をお客様目線で体験し、その後参加してもらう為にはどうすれば良いかをグループワークを経て各班で発表した。後半では広報活動の一環として来館者に若年層が著しく少ないことが課題とされている。そこで、私たち20代の目線の意見がほしいとのことである。SNSをもっと活用すべき、周辺の施設との連携をすべき、ホームページの構成を変えるべき等、多くの意見が挙げられた。最後に職員の方の総評として別の視点からの意見が多かったので参考にしていきたいとおっしゃった。実習生全員で沢山挙げたので参考にして頂けると非常に嬉しいと思った。

また、館内で発行している「博物館だより」の特別号の記事を1人ずつ担当することになった。博物館内での自分の好きな場所をテーマに載せていただけることになった。

3日目は、前半に歴史・古美術資料を実際に手に取って見て適切な扱い方を教わる作業を行った。最初に歴史的に価値のある掛け軸を使用し、所有者の許可取りから実際に箱から出す作業、掛け軸の掛け方の一連の動作を行い、検査調書の作成をした。各種の部分の説明を聞き、傷みに応じて取り扱いを変更するといった繊細さが求められる作業であった。卷子や陣笠も取り扱い、先ほどと同様に一連の取り扱い方や検品調書の作成を行った。後半では洗濯板や背負い籠等の民俗資料を使用し、「小学生向け体験プログラム」をテーマに企画・立案をするグループワークを行った。45分で30人の生徒に満足してもらい、何を目的にするかを考えるものであった。

4日目では、前半に考古資料の取り扱いとして梱包作業を行った。最初にレプリカの資料で何回か練習をした後に実際の資料で梱包した。授業では小さな資料で包んでいたのが、比較的安易にできたが、実際の資料では比にならないほど大きな資料だったので非常に難しかったが、同時に大きな達成感も得られた(写真3)。後半では、IPMに関する実習で館内に設置してある粘着トラップにどのような文化財害虫がいるかを確認した。入口付近では多く確認できたが、収蔵庫では殆ど確認されないといった違い

を目で確認することができた。



写真3 実際に梱包作業を行った模様



写真4 展示実習で完成した企画

5日目～6日目には展示実習を行い、実習時に空いていた特別展示室で決められた資料を使って班ごとに展示の企画・立案を行った。テーマやキャプションの配置等も自分たちで決め、誰を対象にして何を目的に展示するかを企画した。内容が全くない状態からのスタートだったので、資料から共通点を探すのに苦労した(写真4)。

しかし、自分たちで発案から実行まで全て行うことができたことは、とても良い経験であり今後にも大きく活かせるものではないかと思った。

私はこの6日間の実習期間で、博物館の教育普及活動や広報活動等を通して人に伝えることの難しさや具体的な目的を持たないと、意味のないものが完成してしまうことなどの難しさを痛感した。

また、大学の授業では得られない現場の臨機応変に対応する力は、学芸員のみならず今後の人生にも大きく活かされていこうと思った。

最後に通常の業務に加え、感染症のリスクが高いなかで実習を受け入れてくださった埼玉県立歴史と民俗の博物館の職員の皆様には改めて感謝したい。

〈歴史博物館での実習〉

富士山かぐや姫ミュージアム

メディア情報学部メディア情報学科 4年 笠井 琳

私は今回静岡県富士市にある富士山かぐや姫ミュージアムという歴史民俗博物館に、9月2日～9日

までの7日間（休館日除く）実習をさせていただきました。緊急事態宣言中での実施になってしまった為、当初の実習スケジュールとは少し変更された部分もあったが、実習担当の高林さんや館長を始め多くの博物館勤務の皆様のご協力のおかげで無事実習を行わせていただくことが出来ました。9月は展示替えなど博物館でも忙しい時期の中、現場の学芸員の働く姿や博物館の課題など授業では知ることが出来ないことを多く学ぶことができ、私自身とても学ぶものが多かった実習となりました。今回博物館実習を受け入れて頂いた富士山かぐや姫ミュージアムには感謝いたします。

この博物館は主に富士山信仰やかぐや姫伝説など、富士市に関連のある歴史や文化についての調査研究や展示を行います。本館だけでなく、外部には富士の近代史について展示されている歴史民俗資料館や、県指定有形文化財に指定されている旧稲垣家住宅など、富士に関連のある建物や古墳を展示している屋外展示などがあり、富士市に関連のある様々な資料を見たり、体験することが出来る施設です。本来は休日には本館や屋外展示物にてかまど飯体験など様々やイベントやトークギャラリーが実施されるのですが現在は新型コロナウイルスにより人数制限や中止となっていました。そのため、学芸員はこの期間は収蔵された資料の調査や研究を進めるようにすることを主に行っています。この作業によってバラバラだった資料や情報不足だった膨大な資料が整理され、今後の展示やこれからの研究に生かせることができます。来館者が少なく、時間がある今だからこそ、やっと思える作業なのだと思ひました。特に1つの展示を行う為には約一年前から調査研究など準備を始めなければいけないので、展示をより良いものにするためには必要な作業なのだと思ひました。

1日目には主に施設や収蔵庫の見学と博物館の業務内容や課題について思ひました。そこで学芸員さんの知識の多さに驚きました。実習期間中、多くの学芸員さんとお話させていただいたのですが、どの学芸員さんも、自分の専門分野以外に関しての展示資料について理解しており、パネルには載っていない情報まで解説してくれました。市立博物館では勤務している学芸員の数はそこまで多くない為、専門に扱っていない分野でも調査や展示の手伝いを行うこともあるという事を説明して思ひました。

7日目の型染めの資料整理では、瀧浪学芸員さんは担当になってから型染について様々な資料や研究文献を読んで学んだと仰っており、生涯学習として様々な知識を広く浅く学ぶ必要があるのだと思ひました。新しい知識を学ぶことでより自分の専門を深堀出来るきっかけにもなることを思ひました。

2日目からは実際に学芸員として行う作業をさせていただきます。古文書や民具など資料の調書取りや展示用キャプションの作成、展示物の張り替え作業だけでなく特別展示の撤収作業と次に行う展示の会場づくりを手伝わせて思ひました。その中でも特に印象に残った作業は、様々な資料の調書作りと展示室の設営の手伝いです。実習期間中、古文書だけでなく多くの資料の調書を取りました。特に仏像の調書作りはとても印象に残っています。絵画のように絵の内容や色使いから連想する国語的な調書の取り方と比べ、仏像は立体的で様々な造形で彫られているので、高さや重さだけでなく面奥や袖梁などといった細かな個所の法量を正確に測らなければいけない数学的な調書取りがとても興味深い作業でした。

佐野学芸員さんからお話を伺ったところ、他の民具や古文書と比べ仏像は寄贈されてから調査するだけでなく、実際にお寺や家など現地に出向いて調査だけを行うことも多いので、調書を見るだけで仏像を想像できるように、法量を多くとるという事を思ひました。そのため、調査する際はただ資料を測るだけでなく、収蔵場所はあるのか、どのような材質のかなど現地で考えながら調書を書かなければい

けないので、現地に調査する際はあらかじめ知識を頭に入れておくべきだと感じました。

また、今回折れ尺など様々な道具の使い方を教えて頂きました。学芸員は様々な道具を使い作業を行うので、そういった道具の使い方もきちんと把握しないと資料を傷つける原因となるため気を付けたいと思いました。展示室の手伝いでは実際に民具の展示作業を行いました。分かりやすく資料を伝える為には説明文を考える発想力だけでなく、配置場所や空間作りなど見せ方についてのデザイン性も必要なのと感じ、他にも資料の読み方（縦横読み）によって順路を変えたり、資料本来の使い方に沿って壁につるすなど初めて展示品を見る来館者に対しても想像しやすいような展示の工夫も行っていました。

今回実習を通じて感じたことは学芸員に求められているのは知識だけでなく、それを伝える為のデザイン力や調書を取る正確性など様々な力なのだと感じました。県立博物館と比べ、市立博物館は財政面や立地面などでまだまだ課題が多く残っているので、それらを解決するためには自治体や地域の人々の理解と協力が必要になってくるので、観光面だけでなく地域の人に寄り添った博物館づくりが大切なのだと学びました。



写真5 実習生による展示



写真6 旧稲垣家燻し作業風景

《歴史博物館での実習》

古代オリエント博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 北爪 好香

私は7月26日から8月1日の期間に実習休日の2日間を除いた5日間、東京都豊島区東池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館ビル7階にある古代オリエント博物館にて実習をさせていただいた。実習

をさせていただいた古代オリエント博物館は、1978年に日本で最初に誕生した古代オリエントをテーマとする博物館である。常設展示をコレクション展としており、シリアなどでの海外学術調査を行い、出土品に加えて考古、美術、歴史等の幅広い資料を展示している。今回行わせていただいた実習内容はExcelによるデータ入力やデータのスキャン作業、ネガフィルムのデジタルデータ化、教育普及事業の1つであるクイズの作成、体験企画の準備・受付等、様々な作業をさせていただいた。



写真7 チラシ作業



写真8 ミュージアムノート

実習初日は実習生3名で博物館のコレクション展と特別展示を見学し、キャプションなど文章の表記や内容に誤字や誤りが無いかと気づいた点、感想をまとめる作業とチケットの内容訂正、チラシの封入作業（写真7）、ミュージアムノート（写真8）のページにスタンプを押す作業、「オススメの展示品を博物館にかざろう」コーナーにある掲示物付近の備品補充、郵便局へ行き備品の購入、Excelに指定されたデータを打ち込む作業などを行った。指定されたデータを打ち込む際最も難しかったことは、地域特有の名称を読み漢字の変換を行うことである。事前に博物館で取り扱う内容の他に地域名の知識を持っておくべきであったと勉強不足に深く反省した。

2日目はExcelに指定されたデータを打ち込む作業の続きと、デジタルアーカイブ化するネガフィルムのスキャン作業、資料撮影の設営準備を行った。ネガフィルムに指紋が付かないよう慎重に取り扱いを行った。スキャン作業は実習生2人で行い、不備がないかを確認しながら作業をした。資料撮影の設営は博物館実習の講義で学習した知識をもとに、機材や資料にどのような意味があるのかを考えながら行った。使用する用途によって変化する写真の価値について、より深く知りたいと思った。

3日目はデジタルアーカイブ化するネガフィルムのスキャン作業と並行してExcelにファイル番号や内容の照合、訂正、新規で追加されたネガフィルムのスライド番号の打ち込みをおこなった。情報の訂正時は必ず担当の先生に確認をしてから作業を行った。スキャン作業時の埃を取り除く作業をする中で、すでに取りれなくなってしまった埃などもあり、カビや埃などの資料保存時の問題や影響について改めて考えさせられた。ネガフィルムに写る資料はどれも興味深く、資料となる情報と普段の何気ない写真撮影について考えさせられた。特にシリアの遺跡などの写真は、現在の内戦により多くのものが破壊されているというお話を聞き、過去の写真は貴重な資料であることを改めて知ることができた。

4日目は博物館で行われる教育普及活動の一つとして使用される「実習生クイズ」の作成のためコレクション展を観察し実習生で話し合い4問のクイズを作成した。その後、Photoshopとillustratorを用

いてクイズ用紙を作成した。小学生が答えやすく、資料に興味を持ってもらえる問題を作成するために、見た目で見やすいものや、見つけると嬉しくなるものなど実習生同士で何度も話し合い、実際に作成したクイズを体験することで人に伝える教育事業の難しさを学んだ。

5日目は体験企画であるコイン打刻とクイズの会場設営と受付作業、紙の資料をスキャンする作業、体験企画の備品補充を行った。体験企画の受付をする中で、実際に作成したクイズを行う利用者の反応を見ることができ、とても参考になった。体験企画は、感染対策をしたうえで作業説明などを行いどの程度までこちらが携わってよいのか判断が難しかった。しかし、博物館の利用者に携わる作業を行うことで利用者様子や展示室内の様子を改めて知ることができ、多くの人々に支えられて博物館運営を行っていることを改めて知ることができた。

私はこの5日間の実習の中で教育普及活動に携わる作業や資料のスキャン作業、体験企画の受付、Excelによるデータの入力作業、倉庫整理など様々な作業を行わせていただいた。実習を行うことによって学芸員の業務内容を知ることができ、博物館運営に直結した責任のある経験を積むことができた。教えていただいた先生方のお話はとても興味深く、真摯に博物館運営と資料に携わっていることが伝わり、より一層気を引き締め作業を行うことができた。一つ一つの作業が今日の博物館運営に繋がっていることを改めて認識し、個人作業時から多くの方が関わっていることを知ることができた。この実習を通して学び、経験し、考えたことを今後も博物館、学芸員の学習に繋げていきたいと思う。

最後に多忙の中実習を受け入れてくださった古代オリエント博物館の方々に改めて感謝の意を伝えたい。

〈総合博物館での実習〉

入間市博物館 ALIT

メディア情報学部メディア情報学科 4年 佐藤 樹音

私は、7月30日から8月7日で8月2日を除く計8日間、入間市博物館で博物館実習をさせていただいた。入間市博物館は自然・歴史・科学に加えて「お茶」を主要なテーマとして扱っている総合博物館である。平成30年度から指定管理者制度を導入しており、運営・管理・広報・企画の一部を業務委託している。ALITという愛称があり、それぞれ Art (美術)・Archive (保存)、Library (図書館)、Information (情報)、Tea (お茶の頭文字を組み合わせて入間市博物館のコンセプトを表現している)。

実習初日の内容は、収蔵庫・館内の案内をしていただき収蔵庫の環境測定を行った。収蔵庫の温湿度計はアナログ温湿度計であり、時間ごとの温湿度の変化や、収蔵庫の急激な気温変化が記録されているため、8日間の実習の中で毎朝環境測定を行うことが実習生の役割であった。特別収蔵庫では雨漏りをしているところが数か所あり修繕が必要とのことであったが、財政的に厳しく現状では修繕が難しいとのことで、公立博物館の抱える財政的な問題が見受けられた。

2日目の午前には茶畑の除草作業をボランティアの方や学芸員と実習生で協同して行った。茶畑の管理は入間市博物館の「お茶の博物館」というコンセプトから重要な仕事であり、同時に除草作業も博物館

の周辺を整備するという点において、学芸員の仕事は多岐にわたるものであると考えた。午後は黒須銀行と、旧石川組製糸西洋館の見学を行った。見学の際には、黒須銀行の復元や活用についての課題点を聞き、当時の状態や雰囲気を再現するために、どこまで修復を行うのか多様な視点から考えることが必要なのと思った。

3日目は入間市博物館の教育普及活動について学び、「ポケット学芸員」という展示ガイドアプリの原稿推敲を行った。ゲーム機を使用した様々な展示の事例や、実際にゲーム機を使用して展示ガイドを体験することができた。午後は展示ボランティアの方が主催する狭山紅茶飲み体験を実際に体験して、狭山紅茶を飲む体験を行った。このイベントは地元の名産品を知るきっかけ作りだけではなく、お茶に対する見聞を深め、地域の方と交流することや市外から来た方にも入間市の名産品を知ってもらうという集客効果があり、この体験を通して様々な立場の人間が入間市博物館を共に創りあげているという事を感じた。

4日目は午前・午後を通して平和祈念資料展の準備を行った(写真9)。実習生の役割はパネル配置であり、最初に紐で上下の区画を作り、パネルを2、5cmの間隔でピンを貼っていくという作業であった。この作業では上にパネルを貼る際に実習生3人で役割分担を行い、2人はパネルを支え、もう1人は遠くからパネルが左右対称か、ずれていないかを確認し合い、分担で作業を行っていくことの重要性を学んだ。パネルの写真選定もさせて頂き、当時の状況が伝わりやすく印象に残りやすい写真を話し合って選び、どのような配置にするか、子供といった対象を意識して低めに配置することを考え、展示作業は協同し合って大きな展示が出来上がっていくのだと考えられた。

5日目は文書収蔵庫の整理作業を行った。行政文書の整理作業では、棚から文書をおろし、一冊ずつ並べ写真撮影し記録するという作業は大学講義の中で学んだことを活かすことができ、文書の記録管理の流れを理解することができた。

また、収蔵庫の定期的な整理作業を行わなければ、新規の資料を置くスペースが確保できなくなってしまうため、整理作業を行う必要性を学ぶことができた。

6日目は旧石川組製糸西洋館の除草及び清掃作業を行った。特に大変だったのが清掃作業である。側溝の蓋をあげ土をかきあげていく作業は労力を使うため、職員の方と協同して作業を行ったので、効率よく素早く作業を終えることができた。西洋館の周辺は生き物が多く、蜂が巣を作ってしまう可能性もあるため除草作業を行った。根が深いものや、フェンスに絡まった蔦を取り除く作業は大変であったが、自分たちの手によって西洋館の周辺が綺麗になっていくのを見て、とても達成感を感じられた。一日の作業を終えた後の疲労感はかなりのものであったが、除草及び清掃作業を通して周辺整備をすることによって文化財の保存や施設の維持に繋がっていくのだと考えられた。

7日目は展示解説方法と特別収蔵庫の整理作業や美術工芸品の取り扱い方について学んだ。資料の展示解説を行う上で重要なことは、資料を分析して目には見えない資料の情報を相手に伝えることが大切であり、解説を行う事によりその資料の価値、歴史、用途などが改めて理解することができるのだと思った。特別収蔵庫の整理作業については、一つ一つ資料を確認しながら薄葉紙につつまラベルを貼る作業を行った。この作業を通じて誰が見ても区分がわかるようにすることが重要であり、資料の整理作業を行う必要性を学んだ。美術工芸品の取り扱いについては、掛け軸と桐箱の紐結びを行った。掛け軸の巻き方につ

いては、上手く巻くことができず実際に資料を取り扱う難しさを経験することができた（写真10）。

最終日は3日目に行った展示ガイドアプリの原稿を推敲したものを読み上げ、言葉が詰まらないように注意することや、イントネーションに注意しながら録音作業を行った。実際に読み上げたものは、「ポケット学芸員」の中で使用されるとのことで、実習が終わった後も自分たちが行ったことが形に残ることが嬉しく思った。

入間市博物館での実習を通して大学の講義だけでは教わらなかったことも体験でき、博物館の運営や学芸員の業務についてより一層理解を深めることができた。実習で学んだことを今後も様々な形や学習で活かしていきたいと思えた。

多忙の中、実習を受け入れてくださった入間市博物館の方々に改めて感謝したい。



写真9 パネル配置



写真10 掛け軸の巻き方

〈郷土博物館での実習〉

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 関谷 昌俊

私は8月4日から8月11日で8月10日を除く7日間、飯能市立博物館で博物館実習をさせていただきました。飯能市立博物館は博物館法に基づく登録博物館です。飯能市の文化財を中心とした展示を行っている歴史博物館です。平成2年に飯能市郷土館として開館しました。2018年4月に飯能河原・天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加した飯能市立博物館としてリニューアルオープンしました。飯能市立博物館は飯能の「里・町・山・飯能今昔」の4つのゾーンからなるエリア展示の常設展示と飯能

河原・天覧山周辺の自然を紹介した「身近な自然コーナー」の展示が特徴的です。

実習は1日目、オリエンテーションと館長からの講話、博物館の施設見学。2日目は飯能市立博物館の教育事業である「天覧山周辺の自然観察会」の下見と準備。3日目は自然観察会と観察会後の片付け、反省会、4日目、5日目は博物館に展示する民具の整理、6日目は3日目の自然観察会の調査結果から「身近な自然コーナー」に展示してあるコルクボードの更新の為に作成、7日目は館長からの講話、実習のまとめのカリキュラムで行いました。

1日目の午前中は館長から飯能市立博物館の現状と運営方針について、博物館が発行している館報を元に講話を聞きました。講話後に講話内容について意見交換を行いました。この講話を聞いて、現在博物館は観光と関連づけて運営しないと厳しいという現状を知り、博物館の入館者数の成果以外で博物館の価値や意義を高めていかななくてはいけないことを知りました。午後からは博物館の資料整理室、一般収蔵庫、特別収蔵庫、「自然コーナー」、常設展示を見学しました。見学していく中で特別収蔵庫にある古文書の管理方法について驚きました。アルカリ性の封筒やケースで古文書の酸化を防ぐ管理する道具へのこだわり特に驚きました。管理の大切さや重要性を知りました。常設展示室の展示ケースの近くに、その資料の関連する場所を巡ることができるマップが置いてあり、お客様目線での細かい気配りにも感動しました。

2日目の自然観察会での天覧山周辺の下見及び準備では、博物館の職員2名と実習生2名とともに行いました。今回の自然観察会では小学生とその親御さんを対象に昆虫研究の講師を迎えて行う為、現在どのような昆虫や植物が出てきているかを把握し、自然観察会での危険箇所の確認や当日の動きのシミュレーション、新型コロナ感染拡大防止の為に対策を行いました。その他にも参加者の名札作りなどの作業も手伝いました。1つの教育事業を行う為にたくさんの人の労力を経ていることを知りました。

3日目の自然観察会当日では、主に会場設営、受付、講師の方のサポート、お客様の誘導、案内などを行いました。今年は新型コロナ感染拡大防止の対策もあり、消毒やソーシャルディスタンス徹底の呼びかけ、子供達への熱中症対策、事前準備での危険箇所の呼びかけなども行いました。タイムスケジュール通りにうまく行かず、子供達が自然観察に夢中になり集団が広がってしまったり、危険箇所を確認した沼地でもぬかるみにはまってしまった子供がいたり、注意をより呼びかけるべきだったと課題点も見つかり、博物館職員の大変さと難しさを知りました。ただ、お客様が夢中になって楽しそうに自然観察を行っている姿や笑顔を見て、入念な準備をして良かったとやりがいを感じました。

5日目、6日目は民具の整理を行いました。この民具の整理は資料を展示する上で大切な作業で資料1つ1つの名前や収集の経緯、スケッチなど資料に歴史的価値を付けていく大事な作業と知りました。始めは大変な作業でしたが、学芸員の方の「資料との対話がこの作業では大事」と教えて頂き、その言葉を意識して作業を行った結果、昔の人が道具を丁寧に扱っていることや資料1つ1つの歴史や特徴などの違いを知り、資料に触れていくことでこの作業の面白さや資料との対話が少し出来るようになったと感じました。

6日目は3日目の自然観察会の調査結果から「身近な自然コーナー」で展示するコルクボードの更新の作成を行いました。私は天覧山周辺の沼地で見かけたオニヤンマについて取り上げました。特にオニヤンマの羽の複雑な模様のスケッチに苦労しました。その掲示は小学生を対象に作成した為、小学生に分かりやすいようにふりがなを振るなどお客様目線で分かりやすく作成するところが大変であり、完成

品を見て、自分らしいコレクションボードができた達成感とやりがいを感じました。



写真11 展示物の整理

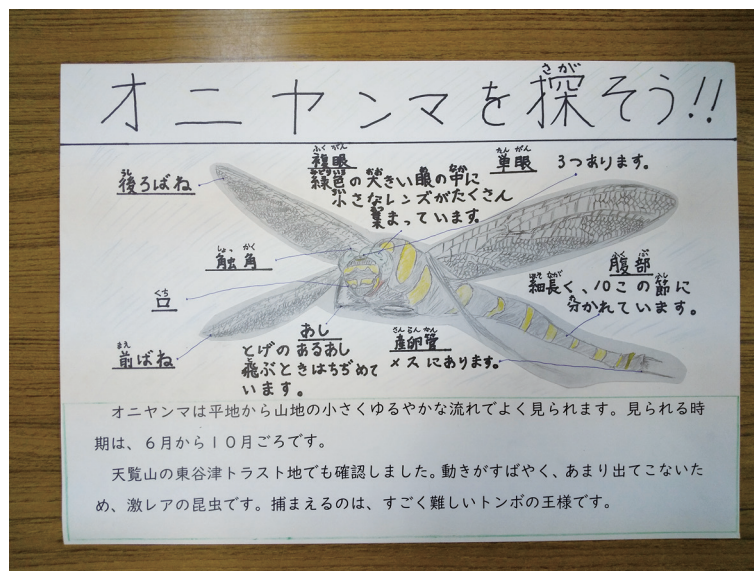


写真12 オニヤンマの掲示作成

《総合博物館での実習》

狭山市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 中村 歩美

私は2021年11月26日から12月19日のうちの10日間、狭山市立博物館にて実習をさせていただきました。狭山市立博物館は「入間川と入間路-その自然と風土-」を基本テーマとして、そこで育まれ生活と文化を築いた人々の足跡にスポットをあて展示を構成しています。また、狭山市が運営する狭山市立博物館は、平成27年度より指定管理者制度を導入しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による、緊急事態宣言の発令が実習予定期間と重なってしまいましたが、実習期間延期の対応を取って下さり、予定通り10日間の実習を行うことができました。10日間に及ぶ実習では、収蔵庫の資料整理の現場見学、企画展の入れ替え作業、小学校の社会科見学の補助、常設展の解説実践、企画展案・工作案の作成など、様々な博物館業務を行いました。とくに収蔵庫の資料整理、企画展の入れ替え作業、企画展案・工作案の作成では大切なことを学びました。

収蔵庫の資料整理では、資料カード片手に資料を探すお手伝いをしました。資料カードのいくつかは、資料名と資料の写真、収蔵番号しか載っていないものがあり、「指定管理者制度を導入する前からきちんと資料整理を行ってこなかったから、今ボランティアの方がメインでやって下さっている。」と博物館が抱えている問題を話してくださいました。「写真と収蔵番号だけで資料を探すのは、まるで宝探し

だ。」とボランティアの方は言っていました。本来やるべき学芸員が資料整理を行えないことが一番の問題ではないかと思いました。

企画展の入れ替え作業では、秋の企画展示の撤収、冬の企画展示の準備をしました。秋の企画展は狭山市在住のアニメーターによるイラスト作品の展示でした。撤収作業の時、美術作品（今回は額に入っているイラスト）の扱い方を学びました。作品を運び出す際に「絵が描いてある方が自分の服で擦れてしまわないように、外側に向けて運ぶ。」と絵画の取り扱いに関する説明を受けることができ、とても貴重な経験をしました。冬の企画展は、狭山の食文化に関する内容です。農機具やお茶作りに使用される道具を収蔵庫から運び出したり、展示で使用される解説パネルの製作をしたりしました。解説パネルの製作は大学の講義で学んだことを活かし、他の大学の実習生と協力をしてスムーズに行うことができました。展示の入れ替えのどの作業においても、チームワークが大切であることを学びました。また、企画展関連行事の一つである工作教室で置いておくための見本づくりのお手伝いも行いました。（写真13）

企画展案・工作案の作成は、博物館からの課題として行いました。企画展案は「狭山市に関連する事」という条件がありました。ひとりひとりで考える課題だったのですが、過去にどんな企画展を開催していたか、狭山市に関連するものは何があるのかを実習生みんなで調べました。進捗を報告したりしながら企画展案を作成しました。工作案は来年度開催予定の企画展に関連するものや、自分が考えた企画展案に関連する工作案という条件で作成しました。どの企画展に関連する工作を考えるかを各々で決めてから、企画展案と同様に実習生みんなでアイデアを出し合いました。最終的に考えた企画案・工作案を発表しました。それぞれの案を発表したのち、質疑応答やアドバイスの時間があり、そこでも意見を出し合い用意した工作にその場でアレンジを加えました。（写真14）

10日間の実習で業務を行う際に、チームワークが必要不可欠であることを学びました。誰かのミスカバーしたり、誰かの良い部分を活用したり、これは博物館に限らず社会人に必要な力だと思います。



写真13 工作教室の見本として制作したもの



写真14 工作案で制作したもの

仲間と協力し、より良い展示を作ることで来館者に満足してもらうことが博物館業務において一番重要なことではないかと思いました。

最後に、お忙しい中実習生として受け入れ、貴重な経験、学びの場を設けていただけたことに感謝し、学んだことを今後の生活で活かしていきたいと思います。

《理工博物館での実習》

栃木県子ども総合科学館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 山越 遥香

私は、昨年の夏に実習する予定だったが、コロナウイルスの影響により休館となり延期され、2022年1月18日から20日の3日間と1月25日、26日、28日の3日間、合計で6日間栃木県子ども総合科学館にて実習させていただいた。栃木県子ども総合科学館は、その名の通り子ども向けに作られた総合科学館であり、宇宙や生物、科学や情報、地学に関する展示がされている。私は理系の学生ではないが、小学生低学年の時に遠足で2回訪れた際に、当館のプラネタリウムを視聴して学芸員の資格を取りたいと考えたという経緯から、こちらの館で実習を行うことにした。

実習させていただいた6日間は2週に渡って行われ、前半の3日間は天文課、後半の3日間は展示課にてそれぞれ学ばせていただいた。また、他大学の3年生3人と共に実習を行った。

実習初日は、朝の打ち合わせで全体への挨拶から始まり、天文課で天文台とプラネタリウムの見学をした。学芸員を目指すきっかけでもあった天文のロマンに触れることが出来て、楽しかった。天文台やプラネタリウムのシステムを動かす機械が古く、30年程前から同じものを使っているそうだが、今回リニューアルするというので、リニューアル後が楽しみである。見学の後は、プラネタリウムでの来館者の誘導とコロナウイルス対策として席にかけておくロープを回ごとに入れ替えたり、天文に関する課題に取り組んだりしていた。

2日目は、課題を引き続き行い、プラネタリウムの上映5分前と終了時のアナウンスを行った。アナウンスの原稿は一応あるが、その時々に来館者に合わせて言い回しを変えるといった細かい配慮がなされていることを知った。基本的なことが出来るのはもちろん、プラスワンが出来たらより良いということを実感した。上映中は、来館者と一緒に席でプラネタリウム作品を鑑賞させていただいていたが、小さな子供が泣き始めてしまった時に、暗闇の中でも他の来館者に迷惑をかけず、それでいてスピーディーな対応をする場面に遭遇することが出来た。

3日目は、天文課での実習が最終日となり、課題発表の為の準備の時間として1日のほとんどを課題完成の為に費やした。各々パワーポイントで資料を作成し、3日目の最後に発表した。その際スタッフの方々に見ていただきアドバイスをいただいた。十数個あるテーマの中から1~2個選んで資料を作成するといった課題だったのだが、私は『日食と月食』と『土星について』を作成し発表した。自分ではわかっている、その情報を誰に向けて発信したいのか、情報は確かなものなのか、わかりやすいもの

か考えながら作るとなった時、博物館実習の講義で行った展示パネルの作成の経験が活きたと感じた。足りない部分は少なくなかったが、また1つ学びになった。



写真15 プラネタリウム



写真16 展示室1B

4日目からは、展示課での実習となった。朝の打ち合わせに参加した後、3か所に分かれて展示の立ち上げを行う。当館は、体験型の展示が主である為、正常に動くのか手分けして点検していく。その後、担当したフロアの展示の見学を各々し、サイエンスショーを見学した。科学館に足りないものとして化学の分野が挙げられ、化学は展示物として置いておくことが難しい為、それをこのサイエンスショーで補っているそう。子供向けとはいえ、大人でもワクワクし、為になるものだった。

5日目は、各々調べてきた子ども向けの科学工作・実験を担当の方にロールプレイング式に発表しアドバイスをいただいた。私は、『移動する水』というテーマで、サイフォンの原理を利用した簡単な科学実験を行ったのだが、上手く行かず悔しい思いをした。

しかし、なぜ上手く行かなかったのか、そこから学ぶことでまた1つ次の段階に繋げることが出来るという言葉に救われた。その後もう1つの課題であるサイエンスショーのシナリオを作成した。

6日目は、展示課、実習の最終日となり、1日通して実際に使用されているステージでのサイエンスショーの撮影の為の準備を行った。私は、『水はいったいどこに！？～魔法の分子～』というタイトルで、高吸水性ポリマーを使用したマジックに近いショーを企画した。シナリオを作成した後は、予備実験の後に本番を迎え、展示課のスタッフ数人が撮影を見に来てくださった。科学工作の時のように各々思うようにいかないことがあったり、100%の成功とはいえない仕上がりになったりなど、緊張感もあって思ったよりも難しいものだと痛感した。私もいざ始まると緊張でシナリオが手放せない状態になってしまったが、なんとか前を向いて実験に入ろうとした瞬間、実際にお母さんと小さな子供2人が観覧席に来ていた為、モチベーションが上がり、自分自身やりたかった実験でもあったので楽しく終えることが出来た。こうして実際に小さな子供が実験を見てくれて、クイズに参加してくれて、科学に興味を持ってくれたらと思うと、とてもやりがいのある仕事だなと強く思った瞬間だった。こちらも完璧なものではなかったと思うが、貴重な体験が出来て嬉しかった。

当館での6日間はとても充実していて、自分にとって成長するチャンスをいただき、他の分野にも活かすことが出来るものであったと感じる。貴重な時間を割いて実習させていただいたことに感謝します。

《郷土博物館での実習》

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 田口 翔太

私は8月4日から8月11日にかけての7日間、飯能市立博物館で博物館実習をさせていただきました。飯能市立博物館は博物館法に基づいた登録博物館であり平成30年に飯能河原・天覧山周辺の自然のデジタルセンター的機能を追加してリニューアルオープンを果たしました。常設展示は「里、町、山、飯能今昔」の4つに分けてゾーン展示をしています。飯能今昔のゾーンは展示変更を容易にできる作りになっており、実習中は飯能市と渋沢栄一、平九郎のパネル展示がされていました。身近な自然コーナーでは、コーナーの正面に天覧山・多峯主山のマップがあり、見ごろの花、樹木、昆虫、動物の写真と観察可能スポットを示し掲示するという展示していました。

実習では自然観察会のお手伝い、民具資料の整理、身近な自然コーナーのコルクボード展示の更新などを行いました。1日目の飯能市立博物館の館内見学では展示室の他に一般収蔵庫、特別収蔵庫を見学させていただきました。山のようにある資料を棚に丁寧に保管されていました。古文書は弱アルカリ性の封筒に一部ずつしっかり保存してありました。しかし収蔵資料が多く保管場所が限られていること、荷解室が狭いなどの課題も垣間見えました。

自然観察会のお手伝いでは前日にコース下見、必要物品の準備及び消毒を、当日は受付、コース下見、自然観察会の撮影を行いました。前日のコース下見では同時に環境調査も行いました。環境調査は指定したコース上に生息している花、樹木、昆虫、動物をノートに場所、場所、状態を含めて記入していききました。私は花、樹木、昆虫、動物の写真撮影を担当しましたが生き物は動いてしまうので撮影はとても大変でした。自然観察会の当日は受付、講師の先生のサポート、観察会の撮影を行いました。またコロナ禍でもあったため観察会中は常に子供達のソーシャルディスタンスに注意しました。しかし熱中症にも注意するため、こまめに水分補給をしてもらうということで、とても周りを見る力と状況判断力が求められました。また、下見では発見できなかった危険も当日はありました。そういったことも加味して教育事業は考えないとだと考えさせられました。当日、参加者に熱中症患者が出ましたが迅速に対応できました。学芸員には専門の知識に加え救急の知識も必要だと感じました。

民具資料の整理では資料カードに資料になる前の「もの」の寸法、文字情報、スケッチを記入しました。単なる「もの」を博物館「資料」にするという博物館の基盤の仕事を経験させていただきました。単にものを採寸するのではなく、墨書や使用痕を見つけたりと使っていた人の息遣いを感じたりと道具と向き合う機会でもありました。博物館学芸員の資料と向き合うという大切な体験でした。またこういった地道な作業の上に資料一点一点が出来ていき博物館の三大要素の一つの「収集・保存」につながって

くると感じました。(写真17)

身近な自然コーナーのコルクボードの更新では、環境調査時に観察、撮影した花、樹木、昆虫、動物のなかで自分が伝えたいものについてパネルとしてまとめるというものでした。こういったコンテンツでこういったまとめ方にすれば、来館者の方に見てもらえるか考え、形にするのは大変でした。

また、図鑑を見て解説を書くのもいいが難しすぎる、文字数が多く来館者が読むのに疲れるという点があり、解説を入れるか入れないかも考え、誰もが読んでわかりやすいパネルを作るということで苦労しました。学芸員の立場からパネルに伝えたいこと、解説を書くのはいいが来館者の立場から考えどうやったら見ってもらえるか、読んでいて疲れさせないかを考える、かなり頭を使う体験でした。(写真18)

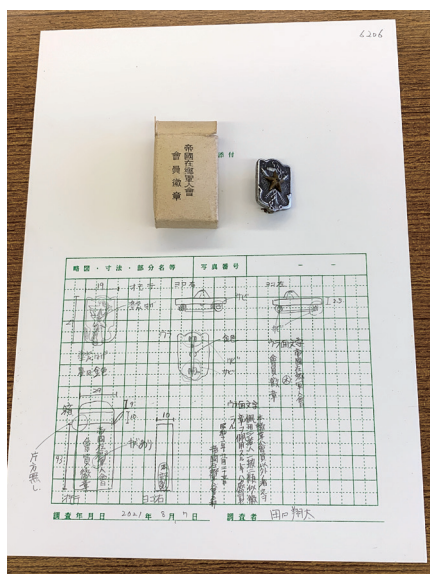


写真17 記入した民具資料カード

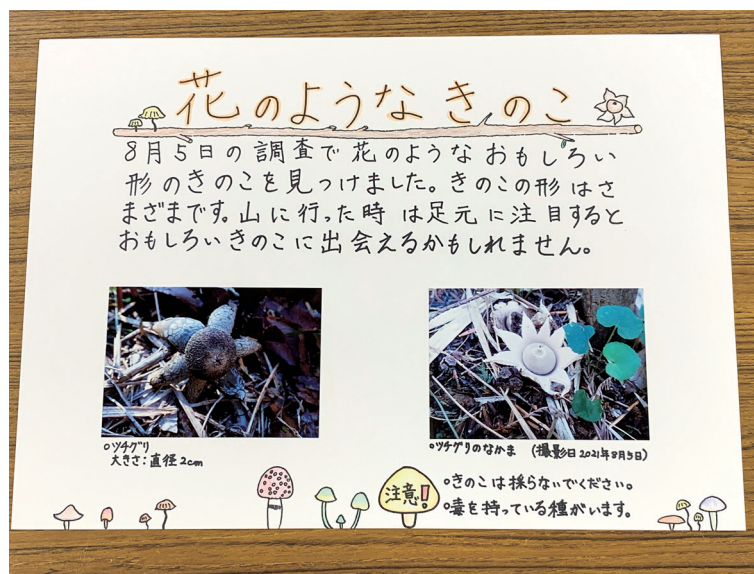


写真18 作成したパネル

今回7日間の実習で行った実習は全て楽しく、充実した期間を過ごすことが出来ました。現場でしか体験できないことは博物館実習の体験としてだけでなく人生にとっても貴重な経験でした。

お忙しい中、実習生として受け入れて頂いたことの感謝を忘れずに実習で学んだことを活かしていきたいと思います。

《理工博物館での実習》

さいたま市青少年宇宙科学館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 今徳 樹

1. はじめに

7月22日(金)～7月29日(木)の間、博物館実習として、ワクワクワークショップの準備・運営

を行いった。今回のレポートでは、より魅力的なワークショップ題材を考え、今後の来館者獲得のためにイベントの具体的な運営方法について考えをまとめた。

2. 実施イベントについて

- ・テーマ：「ふしぎなアルミ卵」実際に使われている卵のような動きをする卵を作っていく。
- ・目的：ワクワクワークショップにおいて、子供だけが興味を持つのではなく、大人までもが興味を持ってもらえる内容を考えた。
- ・企画を考えた理由：私が幼い頃から卵の動きに興味があったからだ。
そして、今回本物の卵ではできないことをたくさん体験してもらいたいと思いこの企画を考案した。

3. 準備期間

準備期間では、説明書の作成と会場設営に取り組む。

・説明書

・必要な材料

アルミホイル（柄のあるアルミのほうが見栄えはよくなる）・ビー玉、サイコロ、ゴムボール
円柱容器・油性ペン・セロハンテープ・実験で使う板アクリル板・卵を転がすときのアクリル板

・作り方

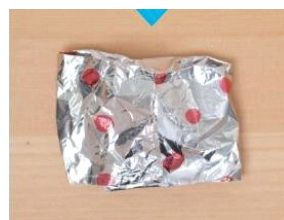
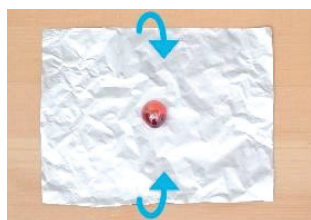
① アルミホイル作成

アルミホイルを縦 10 センチ、横 15 センチに切り取る（無地の場合は油性ペンで模様を描く）



② ビー玉

アルミホイルの上にビー玉を乗せ、2センチほど上下左右の端を折る



③ 3をテープで止める



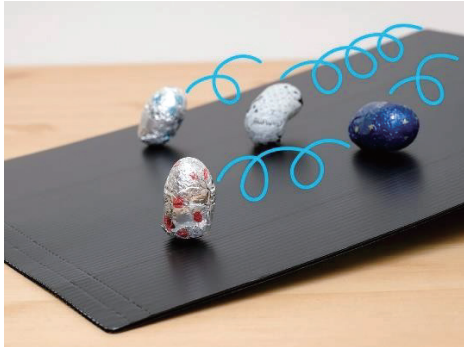
- ④ 包んだモノを円柱容器に入れ、30秒ほど強く振ります。※強く振りすぎるとアルミホイルが破れてしまうので注意してください。



- ⑤ 完成



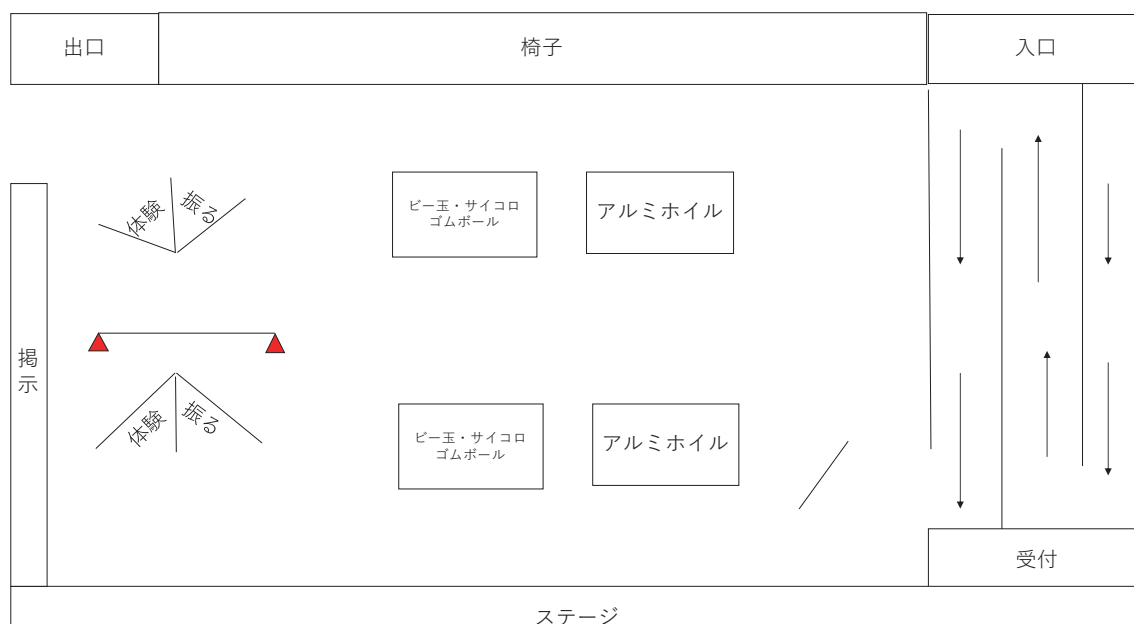
遊び方法は、板などで坂を作りアルミ卵を転がし、動きを観察してもらう



- ・ 事前に用意しておくもの（1日あたり400人くらいに売り出すことを想定しやる）
 - アルミホイルは100本
（アルミホイルは模様を書いている時間がないと思われるので柄のあるアルミホイルを用意する）
 - ビー玉、サイコロ、ゴムボールを各50袋
 - 円柱容器は体験コーナーに10個ほど置く。
 - 体験コーナーで使う台と板とそれを囲むアクリル板
- ・ 会場設営 所要時間：10分程度
 - 1ブース目は、アルミホイルの種類を柄のあるホイルを3種類程度準備
 - 2ブース目は、中に入れるビー玉・サイコロ・ゴムボールからも選べるようにブースを作る。
 - 3ブース目は、アルミホイルで包んだモノを振れるブースを設置する。
 - 最後に完成したアルミ卵で遊べる体験コーナーを設置する。

- 掲示を壁に貼り見てもらう

会場図



4. 運営における留意事項

- 実習生の役割分担をはっきりさせ、それぞれに中高生ボランティアを割り振る。
- 一日限定の仕切る人を決め全体を見渡し、すぐにサポートやお客様対応ができる体制を確保しておく。
- コロナ感染対策として、フェイスシールドを全員着用し、接触を避けるためにお客様には指で指してもらい取るのはすべてこちらでやる。
- 会場内に、写真を撮影ができるスポットを設営する。

5. まとめ

ワークショップを経験して学んだ中で、特筆すべき点は、小さい子供に対する対応の仕方でした。大人と同じやり方では、小さい子供には理解するのが難しいので、小さい子供でも分かりやすい言葉で説明することの大切さが分かりました。また、言葉だけではなく、掲示物などで魅力させる方法の仕方も学ぶことが出来ました。

最後になりましたが、コロナ禍にも関わらず実習を受け入れてくださった館長をはじめ、諸先生方、職員の方々、大変貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。今後、残りの学生生活や社会人に向けて実習で学んだことを活かしていきます。

＝資料＝

博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年間）

【2019年度】

No.	所在	館種	2019年度実習協力館	実習人数
1	沖縄	歴史	石垣市立八重山博物館	1
2	埼玉	総合	入間市博物館 ALIT	1
3	埼玉	自然史	埼玉県立自然の博物館	1
4	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
5	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
6	東京	歴史	八王子市郷土資料館	1
7	東京	郷土	清瀬市郷土博物館	1
8	千葉	歴史	流山市立博物館	1
9	長野	歴史	上田市立博物館	1
10	新潟	美術	新潟市美術館	1
11	北海道	総合	北海道博物館	1

【2020年度】

No.	所在	館種	2020年度実習協力館	実習人数
1	長野	歴史	長野県立歴史館	1
2	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
3	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
4	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
5	東京	動物	（一般財団法人）進化生物学研究所	1

【2021年度】

No.	所在	館種	2021年度実習協力館	実習人数
1	栃木	総合	栃木県立博物館	1
2	埼玉	理工	さいたま市青少年宇宙科学館	1
3	埼玉	歴史	埼玉県立歴史と民族の博物館	1
4	静岡	歴史	富士山かぐや姫ミュージアム	1
5	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
6	埼玉	総合	入間市博物館 ALIT	1
7	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
8	埼玉	総合	狭山市立博物館	1
9	栃木	理工	栃木県子ども総合科学館	1

2021年度 資格課程修了者

[司書課程]

メディア情報学部 メディア情報学科

小林 諒汰
新井 夏帆
石川 ひづき
榎田 裕大
笠井 琳
金田 仁志
北田 優佳
熊谷 勇希
栗嶋 友華
小滝 豊太
齋藤 優花
佐藤 樹音
島田 百合
高松 樹
中島 栞
中島 希
中根 正歩
中野 大輔
間 智哉
波多野 里穂
宮地優希
望月 蘭
山越 遥香
吉田 礼美

現代文化学部 現代文化学科

塚野龍

心理学部 心理学科

大保 匡史
小野 あゆ花
小板橋 美菜
砂川 友花
田中 萌華子

計 30 名

[学芸員課程]

メディア情報学部 メディア情報学科

伊澤 美紀
今徳 樹
内田 智也
笠井 琳
北爪 好香
佐藤 樹音
中村 歩美
山越 遥香
田口 翔太

計 9 名

司書課程科目担当教員一覧（2021年度）

《専任》

[教員名]	[担当科目]
青野 正太	図書館情報学／図書館制度・経営論／情報サービス論
石川 賀一	生涯学習論／図書館サービス概論／情報資源組織論／ 情報資源組織演習Ⅰ／情報資源組織演習Ⅱ
岩熊 史朗	コミュニケーション論
狐塚 賢一郎	生涯学習論
寺嶋 秀美	情報処理概論
野村 正弘	生涯学習論／デジタル・アーカイブズ論

《非常勤講師》

[教員名]	[担当科目]
清野 愛子	児童サービス論
河野 剛彦	歴史資料論
篠塚 富士男	図書館情報技術論／情報サービス演習Ⅰ（基礎）／ 情報サービス演習Ⅱ（発展）／図書館情報資源概論
三澤 勝己	図書館総合演習

学芸員課程科目担当教員一覧（2021年度）

《専任》

[教員名]	[担当科目]
石川 賀一	生涯学習論
伊藤 雅道	環境生物学Ⅰ／環境生物学Ⅱ／生命の科学Ⅰ／生命の科学Ⅱ
海老澤 豊	歴史学Ⅱ
大野 志郎	映像メディア論
大久保 博樹	音響メディア論
大森 一宏	経済史Ⅰ／経済史Ⅱ
岡田 安芸子	日本文化論Ⅰ
木塚 隆志	西洋文化史
黒田 基樹	歴史学Ⅰ／法史学
狐塚 賢一郎	生涯学習論
田所 裕康	地球科学
寺嶋 秀美	ネットワーク構築論
野村 正弘	生涯学習論／博物館資料保存論／博物館実習Ⅰ／博物館実習Ⅱ／ デジタル・アーカイブズ論
福島 大我	歴史学Ⅱ
増田 珠子	歴史学Ⅰ
村上 大輔	文化人類学Ⅰ／文化人類学Ⅱ
村越 一哲	アーカイブズ学
本池 巧	データベース設計論／現代自然科学Ⅰ／現代自然科学Ⅱ

《非常勤講師》

[教員名]	[担当科目]
枝川 明敬	博物館経営論
尾崎 泰弘	博物館資料論
河野 剛彦	歴史資料論
小西 俊也	マルチメディア論
杉山 正司	博物館概論／博物館情報・メディア論
丹治 清	博物館展示論
羽田 武朗	博物館教育論

駿河台大学 資格課程 年報 第 22 号

発行日 2022年4月30日

発行 駿河台大学 資格課程

〒357-8555

埼玉県飯能市阿須 698 番地

TEL 042-972-1110

